

大学における障害学生受け入れの現状 ～2022調査より受験編①～

殿岡 翼 殿岡 栄子

・（一社）全国障害学生支援センターでは2022年6月から12月まで「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2022」を実施しました。以下、本調査または2022調査と略します。今回は本調査結果より、障害学生の在籍状況、受験可否・受験時条件の状況を中心に掲載します。

・直近3回の調査実施状況です。

略称	正式名称	開始日	終了日	掲載書籍
2023調査 次回調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2023	2023年6月 予定	2023年10月 予定	2024年1月に発行予定
2022調査 本調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2022	2022年7月	2022年12月	大学案内2024障害者版
2021調査 前回調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2021	2021年7月	2021年12月	大学案内2023障害者版

1 調査回答状況について

・2022調査の結果、調査対象大学 819 校（大学 809 校・大学校 10 校）に対し、回答数は389校で、回答率は 48%でした。前回調査より 8 校増えましたが、14回実施してきた調査の中で4番目に低い回答率で、全大学の半数に満たない状況でした。ここ数年、調査の回答率が半数に満たない状況が続いており、より多くの大学に回答いただけるよう取り組んでいきます。また2023年度も継続して調査が予定されております。今後も継続した調査・出版・情報提供の実施に向けて取り組んでまいります。

※回答率とは、ある項目の回答数を回答大学数389で割った数（率・%）です。

※前回比とは、前回と今回の回答率の差（ポイント・pt）です。

※表中の▲は「マイナス」の意味です。

・本調査は大学の総意としての回答を求めており、途中まで回答を入力していても大学の総意（決裁）が取れず、最終的な回答に至らなかった大学もあります。このような大学や学生募集停止となった大学は、回答数には含まれておりません。

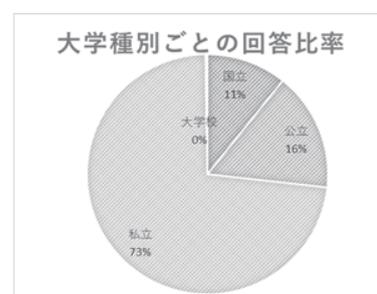
◆大学種別ごとの回答状況

・大学種別ごとでは前回調査と同様に公立大学の回答率ももっとも高く、66%でした。

・公立の回答率が上昇したことは評価できます。

種別	調査対象数	回答数	回答率%	前回比
大学①	809	388	48%	1pt
国立	86	41	48%	0pt
公立	98	65	66%	3pt
私立	625	282	45%	0pt
大学校②	10	1	10%	0pt
合計(①+②)	819	389	48%	1pt

参考：前回調査（2021調査） 調査対象数(816) 回答数(381)
回答率(47%)

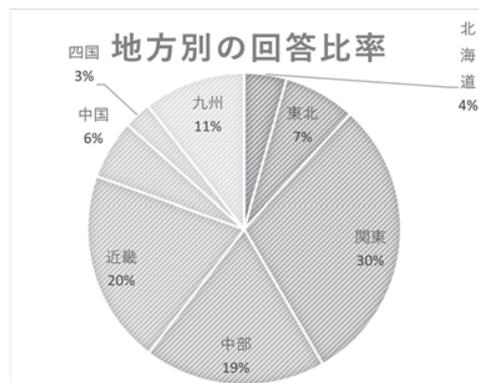


この文章で紹介しているデータのほとんどの項目は、**大学案内障害者版 Web情報サービス**にて公開しています。このサービスを利用すると、各項目にどこの大学が回答しているか分かります。お申し込みは、右のQRコードからアクセスしてください。



◆ 地方別の回答状況

地方	調査数	回答数	回答率%	前回比
北海道	37	17	46%	▲5pt
東北	51	29	57%	2pt
関東	274	116	42%	1pt
中部	144	73	51%	3pt
近畿	160	78	49%	0pt
中国	54	24	44%	▲2pt
四国	18	11	61%	0pt
九州沖縄	81	41	51%	1pt



- ・地方別の回答率は、四国地方がもっとも高く東北、中部と続きます。
- ・前回比では中部地方がもっとも伸びており、東北地方と続きます。

2 在籍状況について

- ・障害学生の在籍がある大学は299校に達し、回答数の77%で前回比2ポイント減っています。在籍者の総数が1万4千人を超えました。また、障害学生が在籍する一大学あたりの障害学生数が、平均47.2人であり、前回調査と比べ大幅に増えました。
- ・在籍する大学数の前回比では、障害別の大分類（表の網掛け部分）で見ると、「精神障害」が8ポイント「内部障害」が3ポイントとそれぞれ増えました。また細かい障害分類では「適応障害」が8ポイント「精神障害の重複」が7ポイント、「不安障害」「強迫性障害」が6ポイント増え、精神障害の在籍大学数の増加がみられます。
- ・在籍者数を前回調査と比較してみると「視覚障害」「聴覚障害」「肢体障害」では在籍者数が減っています。一方「発達障害」「精神障害」では在籍者数が増えています。障害種別によって在籍者数の増減に明確な変化があるのが今回の特徴でしょう。

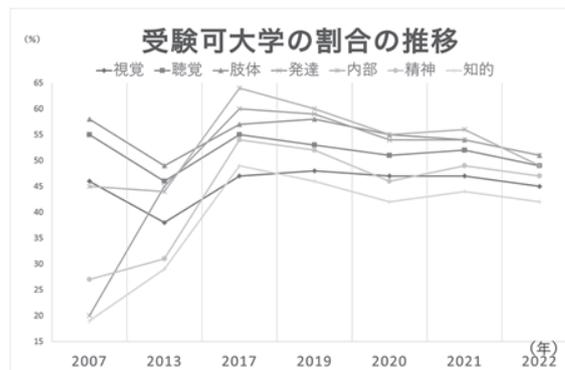
障害種別	大学(校)	率	前回比	人数	増減	平均(人)
全盲	15	4%	▲1pt	37	▽	2.5
弱視	111	29%	1pt	343	◇	3.1
視覚障害	115	30%	1pt	380	◇	2.6
全ろう	23	6%	▲2pt	55	◇	2.4
難聴	172	44%	▲5pt	811	▽	4.7
聴覚障害	175	50%	0pt	866	▽	4.9
盲ろう	1	0%	▲1pt	1	▽	1.0
電動車いす使用	73	19%	▲1pt	128	▽	1.8
手動車いす使用	64	16%	▲3pt	108	▽	1.7
上下肢	72	19%	▲1pt	114	▽	1.6
下肢	105	27%	1pt	176	◇	1.7
上肢	41	11%	▲3pt	60	▽	1.5
肢体障害	184	59%	▲1pt	586	▽	3.2
内部	201	52%	3pt	2267	◇	11.3
SLD	68	17%	3pt	104	◇	1.6
ADHD	190	49%	0pt	1043	◇	4.3
ASD	205	53%	2pt	1283	◇	6.3
発達障害の重複	132	34%	4pt	563	◇	3.8
その他の発達障害	86	22%	1pt	389	◇	3.5
発達障害	241	62%	0pt	3382	◇	14.0
気分障害	201	52%	5pt	1343	◇	6.7
不安障害	190	49%	6pt	929	◇	4.9
強迫性障害	93	24%	6pt	145	◇	1.6
解離性障害	48	12%	3pt	61	◇	1.3
適応障害	130	33%	8pt	418	◇	3.2
統合失調症	111	29%	0pt	199	◇	1.8
身体表現性障害	40	10%	2pt	67	◇	1.7
緘黙症	31	8%	1pt	37	◇	1.2
てんかん	149	38%	5pt	625	◇	4.2
高次脳機能障害	32	8%	0pt	36	◇	1.1
精神障害の重複	94	24%	6pt	318	◇	3.4
その他の精神障害	132	34%	0pt	853	◇	6.5
精神障害	238	62%	8pt	5031	◇	21.1
知的障害	30	8%	2pt	56	◇	1.7
重複障害	131	34%	▲1pt	818	◇	6.2
その他	108	28%	0pt	612	◇	5.7
種別不明	21	5%	0pt	102	◇	4.9
合計	299	77%	▲2pt	14101	◇	47.2

3 受験可否及び受験時の配慮状況について

◆受験可否

- ・受験可否の状況について前回との比較でみると、すべての障害で受験可が減っています。2016年4月の差別解消法施行にともない、一度は大きく上昇した受験可ですが、その後は下落し続けています。
- ・障害別でみると、視覚や知的障害の受験可が他の障害に比べて少ない状況が、依然として続いています。ただしその差は縮ってきています。発達障害と知的障害を比較してみると、9ポイント程度の開きがみられます。

障害種別	受験可否					
	可			未定		
	数	率	前回比	数	率	前回比
視覚	174	45%	▲3pt	215	55%	3pt
聴覚	192	49%	▲3pt	197	51%	3pt
肢体	197	51%	▲3pt	192	49%	3pt
発達	198	51%	▲3pt	191	49%	3pt
内部	192	49%	▲7pt	197	51%	7pt
精神	183	47%	▲2pt	206	53%	2pt
知的	163	42%	▲2pt	226	58%	2pt



◆受験可否未定理由

- ・今回から内部障害の受験可否未定理由の質問が追加されました。
- ・受験可否未定の大学にその理由を尋ねてみると、どの障害種別でも「事前協議後に対応を検討するから」がもっとも多くなっています。障害学生が「事前協議」で受験出来るかどうか左右されるという実態は依然として変わっていません。
- ・さらに可否未定理由の詳細に注目すると、大学として統一した見解がまとまっていない問題や、試験の配慮に関するノウハウといった、大学が困難に感じている事柄が明確になっています。また「合格しても受け入れられない」のような事実上の受験不可ともいえる選択肢への回答が、視覚で5校、聴覚で4校、肢体で3校などとなっており、若干減りましたがこうした姿勢が残っていることは問題です。

可否未定理由 (複数回答可)	視覚障害			聴覚障害			肢体障害		
	数	率	比	数	率	比	数	率	比
事前協議後検討	201	52%	3pt	180	46%	3pt	178	46%	3pt
統一見解なし	26	7%	▲1pt	23	6%	▲1pt	25	6%	1pt
試験ノウハウがない	17	4%	0pt	10	3%	0pt	14	4%	0pt
教職員側の態勢未整備	22	6%	0pt	16	4%	▲1pt	16	4%	0pt
キャンパス設備の問題	19	5%	0pt	12	3%	0pt	12	3%	0pt
合格しても受け入れられない	5	1%	0pt	4	1%	▲1pt	3	1%	0pt
その他	8	2%	0pt	10	3%	0pt	4	1%	▲1pt

可否未定理由 (複数回答可)	発達障害			精神障害			内部障害		
	数	率	比	数	率	比	数	率	比
事前協議後検討	173	44%	3pt	190	49%	2pt	180	46%	新
統一見解なし	30	8%	0pt	37	10%	0pt	46	12%	新
試験ノウハウがない	9	2%	0pt	15	4%	0pt	18	5%	新
教職員側の態勢未整備	10	3%	0pt	12	3%	1pt	13	3%	新
キャンパス設備の問題	4	1%	0pt	4	1%	0pt	5	1%	新
合格しても受け入れられない	3	1%	0pt	1	0%	0pt	1	0%	新
その他	2	▲1%	0pt	2	0%	▲1%	5	1%	新

「合格しても受け入れられない」のような事実上の受験不可ともいえる選択肢への回答が、視覚で5校、聴覚で4校、肢体で3校などとなっており、若干減りましたがこうした姿勢が残っていることは問題です。

どこがちがう？ 事前協議と事前相談

- ・事前協議は、大学が障害学生の状況を見て、入試や入学後にどこまで配慮できるかを検討したうえで、受験可否を判断します。
- ・事前相談は、大学が受験を認めたいうえで障害学生の様子を知るとともに、どのような配慮ができるかを検討するために行われます。

事前協議は障害学生の受験を認めるかどうかが決まっていないうちに行われますが、事前相談は受験を認めた上で実施されます。同じ話し合いの場ではありますが、受験が認められているのと、認められるかどうか分からないのでは、大きな違いです。

◆受験時の条件

視覚障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	137	20	17	174
可否未定	61	10	144	215
合計	198	30	161	389
肢体障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	145	28	24	197
可否未定	63	7	122	192
合計	208	35	146	389
精神障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	114	39	30	183
可否未定	46	11	149	206
合計	160	50	179	389

聴覚障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	153	24	15	192
可否未定	51	10	136	197
合計	204	34	151	389
発達障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	130	44	24	198
可否未定	49	8	134	191
合計	179	52	158	389
内部障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	126	33	33	192
可否未定	43	4	150	197
合計	169	37	183	389

- ・受験可否と受験時の条件の関係について見てみると、それぞれの障害種別で、受験可と回答している大学の方が受験時の条件が決まっているという傾向が出ています。
- ・受験時条件の内容には「事前相談」「診断書の提出」「障害者手帳コピーの提出」など、受験時の配慮を決定するために必要と思われるものと、「入学後の補助者 大学は関与なし」、「入学後大学で配慮なし」など、受験時の配慮内容や入学後の障害学生の活動や配慮内容等を制約するものに区別されます。
- ・視覚障害の受験時条件を見てみると「活字に対応可」、「試験（の形式）変更なし」のように、受験時の配慮に関して厳しい条件をつける大学が依然として減っていないことが懸念されます。こうした条件がある大学を受験する際には注意する必要があります。

視覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	視覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	192	51%	▲1pt	通常活字に対応可	5	1%	0pt
診断書の提出	118	30%	0pt	大学は事故責任なし	4	1%	0pt
障害者手帳コピーの提出	79	20%	2pt	誓約書の提出	3	1%	0pt
活字に対応可	19	5%	0pt	入学後の補助者 大学は関与なし	3	1%	0pt
試験変更なし	15	4%	0pt	入学後大学で配慮なし	1	0%	0pt
新設備設置・購入なし	10	3%	0pt	健康診断受診	0	0%	0pt
入学後は自力通学	9	2%	0pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
入試時自分で歩行	5	1%	0pt	その他	25	6%	0pt

- ・聴覚障害の受験時条件をしてみると「試験変更なし」が15校、「新設備設置・購入なし」が9校、「誓約書の提出」「入学後の補助者 大学は関与なし」がそれぞれ4校ありました。本来入学後の情報保障を行うべき大学から、このような条件を出されることは、聴覚障害学生にとっては辛いことです。

聴覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	聴覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	198	51%	0pt	入学後の補助者 大学は関与なし	4	1%	0pt
診断書の提出	121	31%	0pt	大学は事故責任なし	3	1%	0pt
障害者手帳コピーの提出	82	21%	2pt	入学後大学で配慮なし	1	0%	0pt
試験変更なし	15	4%	0pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
新設備設置・購入なし	9	2%	0pt	健康診断受診	0	0%	0pt
誓約書の提出	4	1%	0pt	その他	25	6%	0pt

- ・肢体障害の受験時条件については「入試時自分で身辺処理」が22校、「入学後は自分で身辺処理」が14校といった厳しい条件を付ける大学があります。通学や学内での生活、授業でのノートテイクなど、とくに人的支援が必要な場合には、こうした条件のある大学では、事前相談で自分に必要な支援についてきちんと大学に伝えることが大切です。

肢体障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	肢体障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	204	52%	▲1pt	入学後の補助者 大学は関与なし	6	2%	0pt
診断書の提出	126	32%	1pt	大学は事故責任なし	5	1%	0pt
障害者手帳コピーの提出	88	23%	2pt	誓約書の提出	4	1%	0pt
入試時自分で身辺処理	22	6%	1pt	入学後大学で配慮なし	1	0%	0pt
入学後は自分で身辺処理	14	4%	0pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
試験変更なし	14	4%	0pt	健康診断受診	0	0%	0pt
新設備設置・購入なし	11	3%	0pt	その他	22	6%	0pt

- 発達障害の受験時条件の内容については「試験変更なし」が9校、「新設備設置・購入なし」が8校、「誓約書の提出」が8校となっています。入学後に授業などで補助者が必要な学生が多くいる発達障害ですが、「入学後の補助者関与なし」も2校ありました。

発達障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	発達障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	174	45%	0pt	大学は事故責任なし	2	1%	0pt
診断書の提出	112	29%	1pt	通常活字に対応可	1	0%	0pt
障害者手帳コピーの提出	66	17%	1pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
試験変更なし	9	2%	1pt	健康診断受診	0	0%	0pt
新設備設置・購入なし	8	2%	0pt	入学後大学で配慮なし	0	0%	0pt
誓約書の提出	3	1%	0pt				
入学後の補助者 大学は関与なし	2	1%	0pt	その他	18	5%	▲1pt

- ・精神障害の受験時条件では「試験変更無し」が9校、「新たな設備設置・購入なし」が8校、「誓約書の提出」が3校「入学後の補助者 大学は関与無し」が2校という厳しい条件をつける大学が見られました。

精神障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	精神障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	154	40%	2pt	健康診断受診	0	0%	0pt
診断書の提出	104	27%	2pt	入学後大学で配慮なし	0	0%	0pt

障害者手帳コピーの提出	65	17%	2pt	対角線	対角線	
新設備設置・購入なし	6	2%	0pt			
誓約書の提出	3	1%	0pt			
入学後の補助者 大学は関与なし	2	1%	0pt			
大学は事故責任なし	2	1%	0pt			
その他				17	4%	0pt

・内部障害の受験時条件の内容では「新たな設備設置・購入なし」が5校、「入学後の補助者 大学は関与無し」が2校、「誓約書の提出」が1校などありました。

内部障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	内部障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	163	42%	新	入学後大学で配慮なし	1	0%	新
診断書の提出	108	28%	新	健康診断受診	0	0%	新
障害者手帳コピーの提出	67	17%	新	対角線	対角線		
新設備設置・購入なし	5	2%	新				
入学後の補助者 大学は関与なし	2	1%	新				
誓約書の提出	1	0%	新				
大学は事故責任なし	1	0%	新				
その他				19	5%	新	

・どの障害についてもいえることですが、障害学生は受験時に必要な配慮について考えるだけでも、一般の学生に比べて時間と労力を要します。そのような状況下で、まだ入学が決まらない前の段階で、入学後についての配慮を認めないに等しい条件を付けられたり、誓約書を求められることはあってはならないことです。自分にとってどのような配慮が必要かをある程度考えておくことは役に立ちますが、実際の大学生活の中で新たに配慮が必要になったり、逆に必要と思っていた配慮がそれほど必要ではなくなることもあります。ですから受験前に、配慮や設備の必要の有無について断定的なことを大学に伝えることはせず、入学が決まった後に話し合いの機会を持っていただけるようお願いすることが大切です。

※表中の障害者手帳とは、視覚・聴覚・肢体障害については「身体障害者手帳」、発達・精神障害については「精神保健福祉手帳・療育手帳」を指します。

◆受験時の配慮

- ・今回初めて、内部障害の受験時配慮内容について、視覚障害などと同様の詳細な項目を設けました。
- ・受験時配慮の調査結果では、視覚障害・聴覚障害・肢体障害で前回比とほとんど変化が見られませんでした。
- ・発達障害・精神障害では「配慮あり」前回比が2ポイント増加しており、このことは評価できます。
- ・内部障害については「配慮あり」が前回比でマイナス11ポイントと大きく減少しました。前回調査までは「配慮あり」の場合、内容の詳細については自由回答でした。今回の調査から他の障害と同様「配慮あり」の場合、試験時間・試験室・出題方法・解答方法等の詳細について、配慮選択肢のチェックが必須となりました。配慮有無の前回比が大きく変わったのはこのことが影響していると思われます。
- ・7月1日発行の情報誌では、受験時配慮の詳細についての分析を掲載する予定です。また10月・12月も調査分析を掲載予定です。引き続き2023年度も会員登録いただき、ご覧ください。

受験時の配慮	配慮あり	率	前回比
視覚障害	261	67%	0pt
聴覚障害	274	70%	▲1pt
肢体障害	272	70%	0pt
発達障害	238	61%	2pt
精神障害	225	58%	2pt
内部障害	245	63%	▲11pt

受験時配慮ありの割合の推移

